

熊本で水田雑草化したナガボノウルシ

浜田 善利

(熊本工業大学)

Toshiyuki HAMADA: *Sphenoclea zeylanica* Gaertn. as a weed
in the rice fields, Kumamoto

ナガボノウルシ *Sphenoclea zeylanica* Gaertn. が、熊本県玉名市に現在も生育していることは、本誌で報告(浜田、1990)した。その後の経過を調査して、本年(1990)夏に、同じ玉名市、および、上益城郡嘉島町で、ナガボノウルシが水田の雑草となっているのが観察されたので、記録しておく。

1. 玉名市小島

玉名市で観察したのは、1990年8月15日である。この場所は、前報の水田から500メートルばかり離れた別の水田である。面積はおよそ1反である。水田の中の一部に、ナガボノウルシがよく生育して、その部分のイネの発育が、影響を受けていた。ナガボノウルシは生育がよくて、イネとほぼ同じ高さになり、60—70cm、枝先では花穂をつけて、開花中であった。それが集まって生えているところは、イネの生育が悪くなっていた。

ところが9月15日に現地を調査したところ、8月に水田と見えたこの田が、実はイネではなくて、タイヌビエだけが茂った田であることがわかった。8月には葉だけだったために、イネとの区別がつかず、しかも一面に並んで生えていたために水田と誤認したものである。タイヌビエの生育は極めて良好で、ナガボノウルシの方がかえってタイヌビエのために、成長が阻害されている状況であった。

ナガボノウルシが入ったタイヌビエの田の8月15日の状況を図1—上に示す。

2. 上益城郡嘉島町

ここでは上島と三郎牟田の水田である。1990年7月に、水田中に慣れぬ雑草が大繁殖したので、除去する目的で、2, 4—Dを散布した。しかし不思議なことにこの雑草は2, 4—Dでも枯れなかった。そこで農協では、熊本県の農業研究センターに問い合わせてきた。この雑草がナガボノウルシであった。

7月13日に農協からの案内で同センターが調査したと

きは、上島では散発的に、三郎牟田では一枚の水田にほぼ全面にナガボノウルシが生育していた。除草剤では除去できないので、その後で一本ずつ手で取り除いたということである。

9月15日に同センターの橋本昭彦氏の案内で、上島と三郎牟田を調査した。ここは圃場整備がすんだあとなので、1枚の水田は面積が3反である。双方の水田ともに、ナガボノウルシは全く見られず、イネが立派に穂をつけていた。

上島については、次のような話を聞いた。この水田の近くで、井手の上流に当たるところに、畜産農家がある。そこで家畜の敷糞にする稲束を、昨年東南アジアから輸入した。そして家畜に使用した後の糞を堆肥として、この水田に入れたという。ナガボノウルシが生えてきたのは、どうもその後であるようだとのこと。もしこの経路が正しければ、輸入した糞についていたナガボノウルシの種子が、水田に入ったものであろう。ただしこれはまだ推測のうちであるという。

三郎牟田の水田は、上島の井手の下流にある。そしてこの水田のあるところが、この一帯での最も低いところで、毎年の梅雨の時は、このあたり一帯が冠水する。そこで三郎牟田の水田は、ここに流れ着いたナガボノウルシの種子の溜まり場のようなのではないかと推察できるという。

9月15日の調査の時は、三郎牟田のすぐ近くの水田で、イネがまばらになったところに、ナガボノウルシが生育しているのが観察された。ここは必ずしも減反のための放棄水田ともみえず、しかもここでは1988年からナガボノウルシの生育が、馬場・信国(1990)によって確認されている。この1990年9月の状況を図1—下に示す。

3. ナガボノウルシの経済的意義について

ナガボノウルシが水田の雑草として、有害であるという記録は、前報にあげた文献にはみられない。水田あるいは稲田に生えることは記載されているが、有害性につ

いては、何も触れられていない。

一方、ナガボノウルシの薬用について、中国本草図録(1990)に次のように記されている。

ナガボノウルシは中国の植物名を楔弁花、生薬名を木空菜といい、全草を消炎、消腫の目的で瘡瘍腫毒に外用する。それには通常生鮮品を潰して患部に塗ったり、乾燥して粉末にしそれをつける。なお同書によれば、楔弁花の分布は、台湾、広東、広西、雲南で、生育地は、水田中あるいは田辺沼沢地となっている。

嘉島町の調査については、熊本県農業研究センターの橋本昭彦氏にお世話になった。ここに付記して感謝する。

引用文献

馬場美代子・信国 弘、1990. 熊本記念植物採集会月報 730・731合併号：34.

中国本草図録編輯委員会、1990. 中国本草図録、8. 商務印書館(香港)、p. 152、No.3847.

浜田善利、1990. 水草研究会会報 39：8.



図1. 水田中のナガボノウルシ、上: 玉名市、下: 嘉島町